

「春は花 夏ほととぎす 秋は月 冬雪さえて すすしかりけり」

この歌は、大本山永平寺をお開きになられた道元^{どうげん}禅師さまの和歌です。「花」「ほととぎす」「月」「雪」と日本の四季折々の移ろいゆく^{しきおりおり}美しさを表現されています。

そして、この美しい自然環境とともに私たちは生きています。

曹洞宗では、地球環境をまもり自然とともに生きていく「グリーン・プラン」運動を展開しています。環境問題に取り組むとき、私たちは「この世に存在するものは、すべて支え合い、助け合って生かされている」という精神を忘れてはいけません。なぜなら、環境破壊は人間の日常生活の中から生まれてくるものだからです。そして環境破壊の進行を防ぐことは、私たち一人ひとりの意思に^{ゆた}委ねられているのです。

今年、東日本大震災が発生し、その直後には、電気・ガス・水道というライフラインが途絶えた場所も多くありました。これまで使えて当たり前だったライフラインが途絶えたことにより、水の有^{ありがた}難さ、電気の大切さ、ガスの大事さを身に沁みて感じた方も多くおられたことでしょう。

しかし、水や限りあるエネルギーの大切さは、その時にはじまったことではなく、私たちが生活をしていく上では、いつでも大事にしなければならないものだったのです。エアコンの調整や、電気をこまめに切ること、服装による調節など、一人ひとりの行動をはじめとして、家庭や企業における協力も不可欠です。自然環境を守ることは、共に生きる私たち誰もが取り組まなければならない課題であります。

また、自然は時に^{きは}牙をむき大きな災害をもたらすこともあります。

地震・津波・台風と人間にはとうてい太刀打ちできない状況に出会うこともあります。被害を出来るだけ少なくするための準備を欠かしてはいけませんが、避けられない自然災害は受け入れるしか術^{すべ}がないことも現実であります。時として大きな悲しみを受けいれなければならないこともあるでしょう。たとえ大きな悲しみに出会っても、今を生きている私たちは、また今日この日を生きなければなりません。それは、私たちは生きていると同時に、この自然環境の中で生かされている存在だからです。

環境問題は、地球温暖化・酸性雨・森林破壊など、たくさんの課題を抱えています。まずは、私たちが毎日の生き方の上でどのように環境を守る生活を送ることが出来るのか、自分の出来ることを出来る範囲で実践していくことが大切でしょう。